

教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	ヨロズ ヲカサ	性 別	男	生 年	1962年
氏 名	萬 司	身 分	教授		
所 属	保育学科				
学 歴					
年 月	事 項				
1980年4月	北海道教育大学 札幌校 特別教科教員養成課程（音楽）入学				
1984年3月	北海道教育大学 札幌校 特別教科教員養成課程（音楽）卒業（教育学士）				
2004年4月	放送大学 障害児教育関係講座 聴講生				
2005年3月	放送大学 障害児教育関係講座 聴講修了（養護学校教諭免許取得）				
職 歴					
年 月	事 項				
1984年4月	札幌市立中学校 音楽科 教諭（2015年3月まで）				
1986年1月	北海道教育大学 札幌校 非常勤講師（中学校音楽科教育法）（1988年3月まで）				
2009年8月	北海道教育大学 岩見沢校 非常勤講師（中学校音楽科教育法）				
2015年4月	札幌市立中学校 音楽科 主幹教諭（2017年3月まで）				
2015年8月	北海道教育大学 教職大学院 非常勤講師（障害児教育、特別支援教育）（2016年8月まで）				
2017年4月	拓殖大学北海道短期大学 保育学科 教授（現在に至る）				
2018年4月	札幌大谷大学 芸術学部音楽科 非常勤講師（現在に至る）				
教 育 業 績					
1 担当授業科目（2019年度）					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
保育実習指導Ⅰ（1年）	302	前期	火	1	
保育実践演習	小児保健実習室	前期	火	2	
保育実習指導Ⅲ	201	前期	火	3	
ピアノ表現Ⅰ	ML	前期	水	2	
音楽Ⅲ	ML	前期	木	2	
保育内容研究Ⅴ（A・Bクラス）	リズム室	前期	木	3・4	
キャリアスキル	301	前期	金	3	
保育実習指導Ⅰ（2年）	302	前期	金	4	
保育実践演習	小児保健実習室	後期	火	2	
保育実習指導Ⅰ（2年）	302	後期	火	3	
保育実習指導Ⅰ（1年）	302	後期	火	4	
キャリアスキル	103	後期	水	1	
ピアノ表現Ⅰ	ML	後期	水	2	
音楽Ⅲ	ML	後期	木	2	
幼児教育の方法と技術	103	後期	金	3	
保育・教職実践演習（幼稚園）	302	後期	水・金	4	
総合芸術（1年）・総合芸術表現（2年）		後期	月・金	5	

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>現状の環境で可能な限り ICT の活用を図り、情報量が適切なものとなるよう配慮している。このことによって指導内容の整理と焦点化を図り、分かりやすい授業を目指している。</p> <p>また、器楽（ピアノ含む）の実技指導においては練習過程の可視化に取組み、理論的な練習が展開されることと、練習が効率的に進められるように努めている。</p>
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>授業展開については以下の観点を重点とし、改善のための取組みを継続している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な知識や技能が身に付けられたか 2. 思考力・判断力・表現力などの諸能力が高められたか 3. 主体的な学びとなっているか 4. 指導内容に対応した適切な学習評価が実施できたか <p>以上は、全ての講義において共通して実現されるように努める。</p> <p>特に、保育・教育実習指導に当たっては、①指導内容の法的な根拠を明確にすること、②必要とされる資質や能力が身に付けられるようにすること、③体系化された学びにすること、となるように取組んでいく。</p>
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>教育・保育現場での音楽表現の指導を想定し、簡易的なピアノ伴奏の方法論と実践、基礎的な歌唱の指導法、器楽合奏の基礎的な理論と初歩的な実践などに関して自作教材を作成し、授業で用いている。</p> <p>また、情報が過多にならないようにプリントやプレゼンテーションによる提示のバランスを考え、原則全ての授業に自作した教科書及び教材を用いることに努めている。</p>
<p>5 学生の指導（課外活動・厚生補導等）</p> <p>(主要 10 件以内)</p>	<p>2017年4月～ 女子バレー部顧問</p>
<p>6 その他</p> <p>(主要 5 件以内)</p>	
<p>研 究 業 績</p>	
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>主な研究分野は、北海道を中心とした音楽文化や伝統音楽等の教材化と授業開発である。</p> <p>これまでの研究成果として、北海道民謡「ソーラン節」と「江差追分」の教材化について、音頭一同形式や追分様式による表現上の特徴の理解を基盤とした授業開発の結果をまとめた。</p> <p>もう一つは、喫緊の保存・保護が求められているアイヌ伝統音楽を、現在、特に重点を置いて研究している。アイヌ民族の伝統的な歌唱であるウポボ(upopo 座り歌)とリムセ(rimse 踊り歌)を研究対象に取り上げるとともに、これに加えて2015年以降はアイヌ民族の伝統楽器であるトンコリも研究対象とし、楽器の入手及び基本的な演奏法を明らかにしようとしている。(日本民俗音楽学会への学術論文投稿)</p>
<p>2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>教育・保育現場の実態を踏まえ、実践研究を中心とした活動をめざす。このことは、教員養成課程の本来あるべき姿だと考えており、幼稚園・保育園などの実践フィールドとの関係を良好に築くことで実現すると考える。その研究対象は、①教育・保育現場で用いられる多様な音楽、②2016年告示の幼稚園教育要領をはじめとする各要領・指針の内容・事項を教育活動で具現化する方法論とする。</p> <p>また、幼児教育との連携が求められる義務教育段階の音楽科教育、小学校との接続を視野に入れた特別支援教育、について継続した研究活動にも取組んでいく。</p>
<p>3 研究助成等 (主要 5 件程度)</p>	<p>(1) 文部科学省科学研究費</p> <p>(2) 学内 令和元年度 拓殖大学人文科学研究所研究助成金</p> <p>(3) 学外</p>
<p>4 資格・特許等 (主要 3 件以内)</p>	<p>中学校教諭一種免許状 (北海道教育委員会 第 1447 号)</p> <p>高等学校教諭一種免許状 (北海道教育委員会 第 1771 号)</p> <p>養護学校教諭二種免許状 (北海道教育委員会 第 0034 号)</p>

著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(学術論文) (1) 幼児期における特別な教育的ニーズ に対する支援への考察 ー北海道幼児教育振興基本方針からー	単著	2019. 11. 31	拓殖大学人文・自然・ 人間科学研究所 人文・自然・人間科学 研究 第 42 号 (77 頁)	本論文は、2018 年 (平成 30 年) に策定された『北海道幼児教育振興基本方針』に基づいて、北海道の幼児期における特別な教育的ニーズに対する支援の実態についての考察を述べている。また、『北海道幼児教育振興基本方針』と連携する『特別支援教育に関する基本方針』(2018)、国立特別支援教育総合研究所等の調査報告、その他の先行研究を参照し、幼児期における教育相談の実態を分析し考察を行った。北海道の地域特性に応じた支援に関する課題を探求した研究である。 (pp. 25～35)
(2) アイヌ民族の伝統音楽の教材化 伝統楽器トンコリの教材化と授業開発	単著	2018. 3. 31	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究 43 号 (77 頁)	本論文は、アイヌ民族の伝統楽器トンコリを用いて「トーキトララン」を教材に音楽科の学習で取り扱うように分析・選択した結果を述べている。 トンコリは、五音音階による調弦で開放弦のみを用いる表現が特徴である。そして、表現教材「トーキトララン」は基本となる旋律型を反復する中で、リズムや構成音を変化させる手法で変奏するという音楽的構造をとる。こうして、器楽表現による授業開発を行い文化的・音楽的価値を考える学習指導を計画し、学校教育でアイヌ民族の伝統音楽に対する文化的・音楽的価値への認識を高めるために、前「座り歌と踊り歌の教材化と授業開発」に続く研究である。 (pp. 25～35)
(3) 幼稚園教育要領改訂後の教員養成の 在り方 三つの幼児教育施設の関係性と小緒学校 との接続から	共著	2018. 3. 1	拓殖大学北海道短期 大学 拓殖大学北海道短期 大学紀要 (創立 50 周 年記念号) (162 頁)	本論文は、2017 年 (平成 29 年) 3 月告示『幼稚園教育要領：文部科学省』と『小学校学習指導要領：文部科学省』との関係性をふまえ、幼稚園教諭等の教員養成の在り方を考察する。『教育要領』とともに対象とするのは、『保育所保育指針：厚生労働省』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領：内閣府・文部科学省・厚生労働省』である。これらの領域「健康」「表現」のねらいや内容、3 歳児以上の内容が共通に改訂されたことを含め、今後の幼稚園教諭 (保育士含む) の要請について考察する。 (pp. 41～57) 筆者：坂井 莉野・ <u>萬 司</u>
(4) アイヌ民族の伝統音楽の教材化 座り歌 (upopo) と踊り歌 (rimse) の教材化 と授業開発	単著	2015. 3. 31	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究 40 号 (80 頁)	本論文は、アイヌ民族の伝統音楽の「座り歌 (upopo)」と「踊り歌 (rimse)」から、音楽科の学習で取り扱うように分析・選択した結果を述べている。 「座り歌」は《chupka wa kamuy ran》を選択し輪唱による表現を特徴とし、「踊り歌」は《ku rimse》を選択し交唱による表現を特徴とする。これらを教材とし、表現と鑑賞の領域が関連する授業開発を行い文化的・音楽的価値を考える学習指導を計画した。現在、アイヌ語によるコミュニケーションや生活習慣等が失われつつあり、学校教育でアイヌ民族の伝統音楽に対する文化的・音楽的価値を認識することは、その保存や保護につながる。 (pp. 34～43)

(5) 江差（北海道）に伝わる民謡の教材化 「我が国の伝統的な歌唱」を取り扱う授業開発	単著	2014. 3. 31	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究 39 号 (104 頁)	本論文は、北海道檜山郡江差町で民謡の保護や保存会の活動状況などを調査し、授業開発に必要な情報や資料の収集を行い、教材化を行った結果を述べている。 「江差沖揚げ音頭」「江差追分」を研究対象とし、歴史的文化的背景やそれと関連する音楽の特徴を踏まえて教材化を行った。いわゆるソーラン節を教材とした学習指導について、適切な取扱いが行われるように研究したものである。 (pp. 61～70)
(6) 私の ICT 活用術情報提示のあり方とコミュニケーション	単著	2014. 3. 31	日本音楽教育学会 音楽教育実践ジャーナル Vol. 11 No. 2 (203 頁)	本論文は、音楽の学習における ICT を活用した情報提示とコミュニケーションの実践を報告したものである。音楽科では、音や音楽による情報とコミュニケーションを重視するが、これ以外に教科書やプリントによる文字、写真、図表、楽譜などの情報、教師の指示や発問、板書なども情報となり、その提示方法や指導者・学習者が共通認識したコミュニケーションとなるように ICT の活用について述べた。 (pp. 44～45)
(7) 音楽における「諸要素」と感情的性格との関連づけ：中学校音楽授業における実践的研究	共著	2011. 6. 5	日本音楽知覚認知学会 (2011 年度春季研究発表会資料)	本論文は、根拠を伴う批評活動と、音楽の要素を知覚し感受して曲想（感情的性格）を感じ取ることとの関連を研究した結果を述べている。研究では、特定の楽曲について、曲想が異なるように要素を操作した複数の演奏を比較聴取し、要素の違いと曲想とを関連づけて認知するという仮説を立て実践的検討を行った。なお、比較聴取する複数の演奏版として、4つの基本感情である喜び、悲しみ、怒り、優しさと無表情の5つとし、それらを新たに録音した。 (pp. 79～84) 筆者：吉野 巖・内田輝・ <u>萬 司</u>
(著書)				
(1) 音楽教育研究ハンドブック 日本音楽教育学会創立 50 周年記念出版	共著	2019. 10. 5	音楽之友社 (247 頁)	学会設立 50 周年記念となる研究書籍で、担当は「第 3 部 音楽教育研究のフィールドと実際」の「第 4 章 小学校・中学校・高等学校における音楽教育 4-3 音楽の学びの広がり 4-3-1 音楽文化との関わり」である。義務教育段階での音楽文化に係る今後の研究の方向性について言及した。 (pp. 190～191) 筆者：加藤富美子、筆者多数のため省略 (113 名) <u>萬 司</u>
(2) DVD ブック事例集 3 実践しよう！ 鑑賞の授業 オークストラの音楽 I 「トルコ行進曲」「ペールギュント 第 1 組曲」「交響曲第 5 番（ベートーヴェン）」	共著	2018. 7. 5	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (56 頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』『中学校学習指導要領解説 音楽編』（2008 文部科学省）に規準して、オーケストラの音楽を教材にした事例を示した。加えて、必要な視聴覚教材の企画と撮影を行い DVD に収録した。 (pp. 3～4, pp. 24～36) 筆者：安部文江、石井ゆきこ、梅宮真理、勝山幸子、河崎秋彦、熊倉佐和子、菅原史枝子、高道有美子、 <u>館雅之</u> 、 <u>萬 司</u>

(3) DVDブック事例集2 実践しよう！鑑賞の授業 郷土の音楽 青森ねぶた祭の音楽・神田祭の音楽・「こきりこ」	共著	2017. 5. 25	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (56 頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 (2008 文部科学省) に規準して、郷土の音楽を教材にした事例を示した。加えて、必要な視聴覚教材の企画と撮影を行い DVD に収録した。 (pp. 3～4, pp. 42～51) 筆者：安部文江、石井ゆきこ、梅宮真理、河崎秋彦、菅原史枝子、高道有美子、熊倉佐和子、長者久保希史子、館雅之、萬司
(4) DVD ブック事例集1 実践しよう！鑑賞の授業「春の海」「六段の調」	共著	2016. 5. 20	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (56 頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 (2008 文部科学省) に規準して、箏の音楽を教材にした事例を示した。加えて、必要な視聴覚教材の企画と撮影を行い DVD に収録した。(pp. 30～44) 筆者：安部文江、石井ゆきこ、梅宮真理、河崎秋彦、勝山幸子、熊倉佐和子、長者久保希史子、館雅之、萬司
(5) これからの鑑賞の授業2	共著	2014. 5. 20	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (102 頁)	『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』(2011 国立教育政策研究所教育課程センター) に準拠して、小・中学校の音楽科の指導と学習評価について解説した。指導と評価が一体となった授業を展開するために、鑑賞領域の指導を例示した。また、中学校の具体的な事例も執筆した。 (pp. 5～35, pp. 79～100) 筆者：安部文江、石井ゆきこ、江田司、大庭一修、河崎秋彦、勝山幸子、長者久保希史子、館雅之、吉川武彦、萬司
(6) これからの鑑賞の授業	共著	2011. 11. 11	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (103 頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 (2008 文部科学省) に準拠して、小・中学校の鑑賞領域の指導内容の詳細を解説。鑑賞領域の指導を例示するとともに具体的な事例も執筆した。 (pp. 1～40, pp. 45～46, pp. 88～91, pp. 98～103) 筆者：石井ゆきこ、江田司、勝山幸子、清田和泉、長者久保希史子、館雅之、吉川武彦、小原光一、川池聡、萬司
(7) 教員養成大学用教科書 中等科音楽教育法〔改訂版〕中学校・高等学校教員養成課程用	共著	2011. 2. 28	音楽之友社 (231 頁)	中学校第3 学年の学習指導案を執筆。2008 年告示中学校学習指導要領に準拠した学習指導案として、鑑賞領域の指導計画及び評価計画を示した。 (pp. 206～208) 筆者：秋田賀文、筆者多数のため省略 (68 名) 萬司
(8-1) 音楽授業が魅力的に変わる！中学校音楽科の授業プラン第1 学年	共著	2010. 11	明治図書 (132 頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成委員として、詳細な解説が必要な指導内容を説明。「表現方法や表現形態を選択する具体的な取り組み」「知覚と感受の考え方」「テクスチャのとらえ方や指導の仕方」を解説した。 (pp. 66～67, p. 101, p. 125) 筆者：原田徹、小熊利明、酒井美恵子、杉山利行、副島和久、清田和泉、福士幸雄、矢野順子、今井るり子、小原一穂、柳博恵、木村信之、長者久保希史子、伊藤尚毅、渡部智子、丸山尚子、納富千代美、岡本礼、関根幸子、谷口桃子、開發直樹、古屋敷博明、萬司

(8-2) 音楽授業が魅力的に変わる！中学校音楽科の授業プラン第2・3学年	共著	2010. 11	明治図書 (143 頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成委員として、詳細な解説が必要な指導内容を説明。「根拠を持って批評するためとは」「音楽の背景や他の芸術を取り扱うこととは」「音楽の素材としての音」「創作活動が取り組みやすい工夫のあれこれ」を解説。また、「身のまわりの音と結び付いた音楽を聴き深めよう」を題材名とした鑑賞の指導事例を提示した。 (p. 73、p. 77、pp. 82～85、pp. 130～131) 筆者：原田徹、小熊利明、酒井美恵子、副島和久、清田和泉、福士幸雄、矢野順子、今井るり子、勝山幸子、尾沢栄一、宮沢高章、澤貴子、開發直樹、成田幸代、鈴木三千代、星和子、小原一穂、大庭一修、渡部智子、伊藤尚毅、千葉葉子、古屋敷博明、丸山尚子、萬 司
(9) 中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽	共著	2008. 3 告示	文部科学省 (237 頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成委員として、中学校音楽科の本文の検討及び執筆を行った。全学年「B 鑑賞」の執筆、「第2 各学年の目標及び内容」「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」も協力執筆した。 (pp. 74～79) 筆者：伊野義博、小熊利明、清田和泉、清水宏美、杉山利行、副島和久、田中龍三、中島卓郎、中村明一、西園芳信、原田徹、福士幸雄、峯岸創、矢野順子、萬 司
(10) 中学校学習指導要領解説 音楽編	共著	2008. 9. 25	文部科学省 発行所：教育芸術社 (101 頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成委員として、第1学年の目標と内容(2) B 鑑賞、第2学年及び第3学年の目標と内容(2) B 鑑賞の解説を執筆した。このほか「第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い」の協力執筆、指導事項に示される文言の詳細について解説した。 (pp. 35～38、pp. 51～54、pp. 59～60) 筆者：伊野義博、小熊利明、清田和泉、清水宏美、杉山利行、副島和久、田中龍三、中島卓郎、中村明一、西園芳信、原田徹、福士幸雄、峯岸創、矢野順子、萬 司
(学会発表)				
(1) 郷土の芸能・音楽の教材化 - 北海道深川市における考察 -	単著	2018. 8. 26	日本民俗音楽学会 第11回民俗音楽研究会	今次改訂学習指導要領における我が国や郷土の音楽文化を取り扱うことを基盤としたこと、これと関連を図りながら多様な音楽文化を取り扱うことを求めている現状を分析し報告した。そして、北海道ならではの事情や状況をとりえ「郷土の芸能・音楽の教材化」とし北海道深川市の実態を報告した。
(2) 小・中学校音楽科での郷土の芸能や音楽の取扱い - 教材 DVD の開発から -	単著	2018. 3. 24	日本民俗音楽学会 第7回研究例会	小・中学校音楽科で我が国や郷土の音楽を取り扱うことを一層重視することを踏まえ、学習用の教材開発(DVD教材)の在り方について研究成果を発表した。教材を使用する目的や意図によって検討の観点は変えることを主張し、収録の成果として映像の構成を説明した。
(3) アイヌ伝統音楽の教材化 ウポボの音楽的特徴	単著	2012. 3. 31	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究 37号 (62 頁)	アイヌ伝統音楽を学校教育で取り扱うために教材化を図る目的と方法を報告した。大まかに輪唱と音頭一同形式による演奏形態に着目した研究成果の報告である。

(4)日本の伝統音楽の授業において何を指導内容とするか —型の学びとともに伝統の本質である創意に満ちた発展的体験を—	共著	2009.3.31	日本学校音楽教育実践学会 学校音楽教育研究 vol.13 (275頁)	研究大会ラウンドテーブルⅡの報告として、日本の伝統音楽における型（旋律型など）に着目し、その本質と変容の許容を取り上げてディスカッションした内容をまとめた。
(5)日本伝統音楽の授業において、「六段」をどう扱うか	単著	2008.3.31	日本学校音楽教育実践学会 学校音楽教育研究 vol.12 (231頁)	研究大会ラウンドテーブルⅡの報告として、日本の伝統音楽において「六段」の取扱いについて、萬の発表及びディスカッションの内容をまとめた。

研究業績（過去3カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
10	7	5	0	無	有

学 内 運 営 業 績

1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	2017年4月～	・就職指導室 室長補佐
	2018年4月～	・就職指導室 室長
	2018年4月～	・就職委員会委員長

学 外 活 動 業 績

1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通じた活動 (主要 10 件程度)	2006年9月～2009年3月	文部科学省 中学校学習指導要領 調査・研究委員
	2006年9月～2009年3月	文部科学省 中学校学習指導要領解説 音楽編作成委員
	2009年7月～2017年3月	公益財団法人音楽鑑賞振興財団 夏の勉強会【教員免許状更新講習講師】
	2009年12月～2017年3月	公益財団法人音楽鑑賞振興財団 冬の勉強会【教員免許状更新講習講師】
	2010年4月～2017年3月	公益財団法人音楽鑑賞振興財団 研究委員
	2010年11月	東北音楽研究大会盛岡大会 特別支援部会 助言者
	2014年11月	東北音楽研究大会釜石大会 特別支援部会 助言者
	2014年11月～現在に至る	青森県八戸市中学校音楽教育研究会 講師
	2015年1月～現在に至る	香川県中学校教育研究会（音楽） 講師
	2015年1月	徳島県徳島市音楽教育研究会 講師
	2017年8月	鹿児島県中学校教育研究会音楽部会 講師
	2017年10月	日本音楽教育学会 設立50周年記念出版委員会 編集委員
	2018年8月	奈良県鑑賞教育研修会 講師
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	日本民俗音楽学会 【理事・調査研究委員長】	
	日本音楽教育学会 【設立50周年記念出版委員会 編集委員】	
	日本音楽学会	
	日本学校音楽教育実践学会	
	北海道特別支援教育学会	